

一栄谷 眞見の私見



先の9月16から18日、東京・浜松町にある東京都産業貿易センターで第7回目オーガニックライフスタイルEXPOが開かれた。これ併行して日本オーガニック会議の主催によるオーガニックカンファレンスとして、各種パネルディスカッション等が続いた。

日本オーガニック会議は先に取り上げたことがあるが、「サステイナブルな社会実現のため、有機農業を核とした持続可能な農業やオーガニック市場の拡大を目的として、生産、加工・流通、その他関連事業の実務者等が横断的に集う会議。政策

立案者や学識者等とも協力しつつ、建設的な議論を活性化し、政策提言等を行い、インベスティティブな行動変容を創り出すプラットフォームを自指す。7つのパネルディスカッション等のテーマをあげておは「カーボンニュートラルな社会構築に向けて、農業の可能性とみどりの新法」「オーガニック市場拡大の課題と戦略」どちらを使いこなす？ 認証ラベルの活用と実践」「サステナビリティ実現に向けて」「暮らしにつながるオーガニックと気候

危機と生物多様性 シナジーを生むには？」、「オーガニックと何く高橋メアリージュンと学ぶオーガニックライフスタイルスカール」「公共調達をオーガニック化が地球を救うらぐグリーン購入法から学校給食まで」「未来へ繋ぐオーガニックな農業 有機農業で生きていく」となる。そしてこれらの議

「カーボン・ファーマーミング」の衝撃

論を踏まえて最終、総まとめ的な位置づけで、官民連携創出会議が開かれた。官民連携創出会議では、農水省と環境省から担当審議官と課長が参加して、30名ほどの日本オーガニック会議の実行委員と今後の課題等について意見交換が行われた。総じて見ると、有機化や学校給食等の推進をはじめとする課題を共有・確認した中身であり、みどりの戦略の目標実現に向けてターゲットを切った感がある。ここでは「Aグルー

への取組みの必要性・重要性についての意見が出されたことも特記しておきたい。話しは変わるが、8月2日にNHKのBS1で放映された番組「カーボン・ファーマー」があらちでこの話題となつてい

る。これは今年の2月に放映されたものの再放送である。アメリカで拡がりつつある不耕起・カバークロップ・輪作操作を基本とするカーボン・ファーマーシグ、吉田俊直氏の雑草を使つての圃ちゃん農業、そして山梨県の果樹農業での4パーミル運動への取組みが取り上げられている。これら事例をつづいて、植物の地上部での光合成作用だけでなく、地下部・根圏での根から滲み出される炭素化合物と土壌菌からの微量要素との交換、そしてこの過程で土の団粒構造が形成され、連水性・保水性等機能が驚異的に向上するとともに、健全な土から健康な農産物が生産され、化学肥料・化学農薬の使用を不要とするところをリアルに示す。土づくりの重要性は連綿として強調されてきた経過があるが、これを炭素をキーワードに科学的に解明した中身となつており、説得力に富む。

みどりの戦略推進では、有機農業や減農薬・減化学肥料が強調されるが、基本は土づくりにある。持続可能性は土づくりからもたらされる。みどりの戦略の原点を忘れてはならない。(農的学会サイエンス研究所代表)